

ふう（地域生活支援事業）

放課後デイサービスの充実により、近年の平日ふう利用の学生はほぼゼロというのが現状です。10数年前は毎日のように放課後学校へ迎えに行き、公園で遊んだり買い物に行ったりしました。その当時の学生が就労し、今でも休日にふうを利用されています。それぞれ別の就労先ですが、数か月に一度の再会をいつも楽しみにしています。昨年、平日のみ利用されているAさんを日曜日に行ったクリスマス会に誘ってみました。高等部を卒業してから5～6年ぶりの同級生4人との再会でした。支援者の入るすきが全くない何とも言えない空気感に包まれている姿を見られるのは、ふうの強みだと感じました。

また、利用者さんの長年の夢だった天竜浜名湖鉄道でのお出掛けもできました。「今日は本当に良い日だ！本当にありがとう！」と終始笑顔の絶えない一日となりました。

毎日の介護に行き詰まり、助けを求めてきた保護者の方もいます。そんな時にはまず「うんうん」と話を聞き、できる限りの提案をしてみます。何か月か経ったあとのお母様の表情が明るくなった時は、ふうは利用者さんのものではなく、お家の方のものでもあると実感しました。

1. 今年度は新規利用者さんの確保と昨年度法人内で応募を募った方たちのお力をお借りして、必要としている方があれば利用回数を増やしていきたい。
2. 支援員の持っている特技を生かし、全員でサポートしながら新しく畑作業に取り組んでいきたい。

困った時に「そうだ！ふうに聞いてみよう」と頭に浮かぶ場、そして利用者さんも保護者の方も「ふう～～」と落ち着ける場を今後も築いていけるよう活動が続けていきたいと思います。

（文責：名倉 裕美）